

近森病院 言語療法科

科長 井上浩明

概要

近森病院言語療法科は、2023年当初6名体制で運用を開始した。4月に新入職員が1名入職した。4・7月に各1名産前産後休業に入り、10月に1名育児休業から復帰し、現場は6名体制での運用となっている。臨床面では、人員不足のため、介入基準・方法の見直しや他部署との協働の調整などを行い、スタッフの負担を可能な限り軽減するよう努めた。業務面では、手動経管栄養の栄養投与中にリハビリテーション実施が許可され、訓練時間調整が短縮された。教育面では、前年に引き続き、組織的に専門資格取得に取り組み、必須講座の受講などを促した。学生指導では、短期実習生1名、長期実習生1名の指導を行った。

業務実績

入院・外来患者処方数は、1177件（前年1146件）であった。月別処方数を図1、月別実施単位数を図2に示す。4月は産前産後休業スタッフや新入職員教育の影響で実施単位減となったが、以降は適宜調整を行ない、徐々に増加傾向となっている。

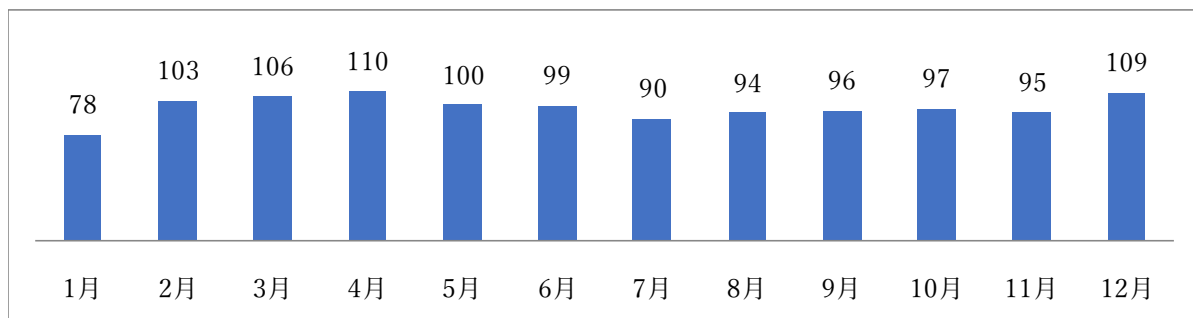


図1. 月別処方数

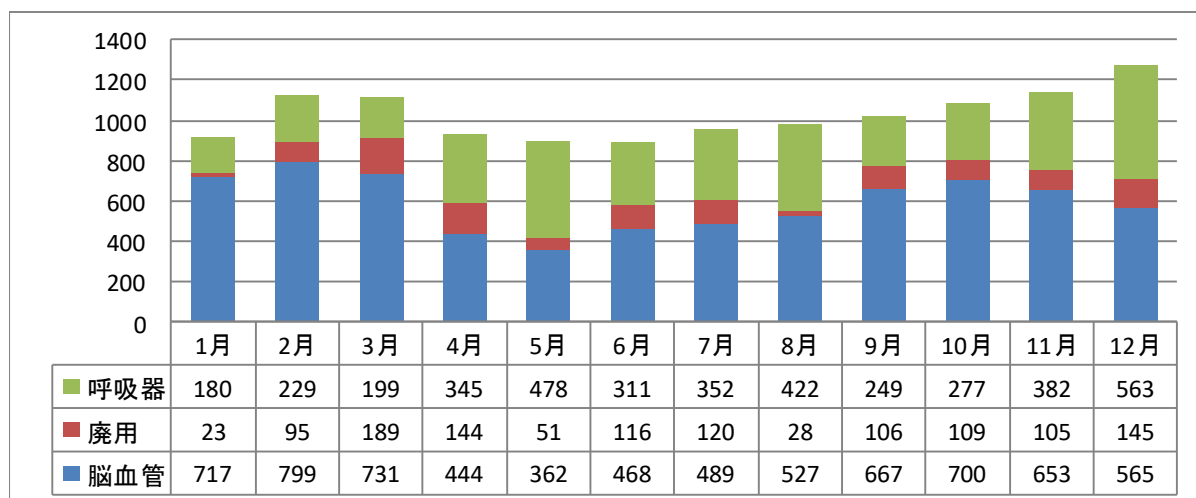


図2. 月別実施単位数

終わりに

2023 年は、計 4 名のスタッフが育児休業となる時期が生じ、大幅な人員減での運用となった。しかし、介入基準・方法の見直しや、他部署との協業といった業務工夫を行うことで、新たな働き方も見出せた。2024 年も、積極的に業務工夫・改善を行い、患者様・スタッフともに有益となるような体制を構築していきたいと考える。